

右心房内に血栓を認めた後大静脈血栓症の育成牛の1例

猪熊 壽^{1)†} 吉 林台¹⁾ 下田 崇²⁾ 富樫義彦²⁾ 古林与志安¹⁾
古岡秀文¹⁾ 佐藤基佳¹⁾ 石井三都夫¹⁾

1) 帯広畜産大学畜産学部 (〒080-8555 帯広市稲田町西2線11)

2) 北海道十勝農業共済組合 (〒089-1182 帯広市川西町基線59番地28)

(2008年8月18日受付・2008年9月30日受理)

要 約

1歳10カ月のホルスタイン種育成雌牛が、初診時食欲不振、消瘦、チアノーゼ、肺音粗励、発咳等の症状を呈した。さらに第14病日には頻脈、頸静脈拍動等の循環器症状が認められた。血液および血液生化学検査により慢性炎症像が、また心エコー検査により右心房内に三尖弁と付着しない高エコー占拠性病変が観察された。本症例は病理解剖により後大静脈血栓症と診断されたが、血栓が心臓内において描出されたまれな症例と思われた。

——キーワード：後大静脈血栓症，心エコー検査。

----- 日獣会誌 62, 376～378 (2009)

† 連絡責任者：猪熊 壽 (帯広畜産大学畜産学部臨床獣医学研究部門予防獣医療学分野)

〒080-8555 帯広市稲田町西2線11 ☎・FAX0155-49-5370 E-mail : inokuma@obihiro.ac.jp

日獣会誌 62 376～378 (2009)

—— 376 ——